

# Page.1 NEWS

2009.2

vol.

48

編集・企画：(有)一粒社 企画部

半田市有楽町7-148-1

TEL (0569)21-2130

FAX (0569)22-3744

Date:2009.2.20

http://www.1tsubu.com Email:page1@1tsubu.com



当社3Fの近影

## 今思うこと

〜 世界同時不況 〜



(有)一粒社 社長

都築延男

新年も明けました、本年もPage1ニュースをよろしく願っています。

新年の互礼会から始まり、我々印刷業界の新年会もすべて終えました。行くところまで耳にした言葉は、今年は、一〇〇年に一度の不況とか、未曾有の金融危機、販売不振、派遣切り、非正規雇用、工場閉鎖などでした。新聞紙上でも、トヨタ、ホンダ、ソニー、パナソニック等々世界ブランドの超優良企業までが、この世界

同時不況に巻き込まれた記事が毎日掲載されました。ホンダのF1撤退に始まり、優良各社がスポーツイベントのスポットまでも降

り出しておりますが、社員の給与の減額要請をするまでを考えると止むを得ない現実と思います。

さて印刷業界はと言いますと、まず印刷機械メーカーの場合、輸出が7、国内3の割合が平均とお聞きしていますが、その輸出が円高と金融危機で販売がストップ状態で大変と聞きます。印刷会社では、昨年の原油価格の高騰で製紙メーカーの15%の値上げに続き、インク、アルミ版、諸資材が値上がりの高止まりで、原油は下がっても製紙メーカーは、減産に入り、用紙の値下げをする様子はありません。中東のOPPOのみたいです。現在、業界挙げての値下げ要請をしているのが現状です。

当社の一部門では、輸出入の電動工具製品マニュアルを製造していますが、今年に入って発注が激減しました。メーカーの3月は、10日間の臨時休業になりました。この種の仕事は、系列ですのどうしようもありません。こんな中で、我々印刷業者は、お客様の製造に関わる印刷製品のコスト見直し、販売におけるマーケティングを共に考え、効果提案をする必要性が今出来る事と感じます。これから経済環境がどのようになるかは、まったく判りませんが業態変革を進めて、諦めずに変化をチャンスに出来るよう社員一同努力したいと思えます。

川柳

“大不況いま変革がチャンスなり”

# 知多の歴史

## 清水次郎長と知多 二

吉岡 正裕

次郎長に狙われていることを知った保下田久六は逃げ回る。

常滑の本町には、久六が身を隠していた、土蔵の跡がある。

さらに久六は、十手の御用を務めていた関係からか、亀崎の代官所に転がり込む。

さしずめ、大きな派出所に匿われたようなものである。

しかし、次郎長は意に介さず、大政・石松・緒川の勝五郎ら四人を引き連れ、亀崎に向かった。

果し状を送り、呼び出したとの説もあるが、急襲したのであろう。

驚いた久六達は逃げ出したが、乙川葭野畷で追いつき、見事久六を討ち果たす。

ところが、面子を潰された亀崎の役人の追及は厳しく、舟で三河に逃げる手はずが

狂い、阿久比の山中に入り、桶狭間まで走ったという。

無事逃げおおせたとはいえ、お尋ね者になつたわけで、清水にはおれず、旅を余儀なくされた。

もっとも、次郎長一家の勢力は、この一件を期に東海道沿いに知多まで拡がり、さらに伊勢にも及んだ。

六年後に起きた荒神山（鈴鹿）の決闘では、西尾から舟で河和に渡り、陸路半島を横断し、白子の浜に向かつており、知多はなじみの土地となっていた。

また、三代目お蝶は乙川ゆかりの人で、次郎長にとつて知多は第二の故郷といつてもいい存在であった。



次郎長肖像画

# この街この人

No. 9

情に報いる



四季の文化社 代表

深見 和満（半田市）

有名歌手が離婚すると聞いて、その自宅周りをうろちよるするだけで、すぐすごと帰ってくるスクープのとれない芸能記者。そんな落ちこぼれ記者にもできることがある。

知多半島の文化情報紙、月刊「ちたぶんか」は二十年続けた。今、頂いている月刊の新聞、季刊の雑誌の仕事はもう十六年続いている。

妻と二人三脚だが、以前は、ああ言えば、こう言うと言いつ合っていた二人も、今では、ああ言っても、「うん、うん」とうなづく日々。これを「あ・うんの呼吸」と言うのかな。「生涯一記者」を誇りに、これからも、から元気とから笑いで生きのびていくつもり。

情報とは「情に報いること」と作家の五木寛之氏も話していた。多くの皆さんの温かい情に支えられて今がある。情に報いる人生を全うしたいと思っている。

グローバル化、成長第一、競争、効率と、懲りない人たちに伝えたい。足もとをじっくり見詰め、情に報いる人生（恩返し的人生）に切り変えてみませんか、と。



現在のOS「ビスタ」は不評が続いており、対抗するUNIX・マックがシェアを伸ばしている。ビルゲイツ氏もその失敗を認め、マイクロソフトでは次期OSの開発に拍車がかかっているようだ。

その次期OS「ウィンドウズ7」のベータ版が公開され、その概要が徐々に明らかになってきた。一体何が変わるのか？ その特徴を探ってみた。

●軽い

ビスタに比べて軽快に動作するところが最大の「売り」のようだ。ハード面での要求が下がり、ビスタでは2GB必要だったメモリが1GBで動くらしい。

起動・シャットダウンもかなり高速化され、XPよりも軽いという噂もあるが定かではない。

●タスクバーの変更

バックと見た目はビスタそっくりであり、あまり変わり映えしないが、唯一タスクバーが変わった。開いているウィンドウの表示が少し大きめのアイコンになり、プレビュー／サムネール機能が強化された。ウィンドウ切替時にフルスクリーンプレビューもできるらしい。ビスタの次が来年末にも出る「コードネーム：EUI」ようなので、それまでXPを使い続けるのが得策と言えそうだ。

インターネットソーパーズ

半田市青山一 一九一

TEL (〇五六九) 二二二 八八六一

自費出版

『旅の思い出』

岡村富美子(半田市)



A5 78頁  
ソフトカバー製本

寄付金付の旅を実行し、お城修復と言う目的を持ち旅を楽しみました。本を書くなんて思ってもいなく、旅の後半に本にして残すべきと言われましたが、自分には書くという苦手な分野でもありませんでした。ところが、お城修復ができなくなり、旅に参加してくださった人達に目的が達成できなかったお詫びと、お礼をしなければいけないという思いが出て、私の思いと皆さんとの楽しかった旅の思いを残し感謝したいという気持ちで書くことを決めました。ですから、最初から最後まで7回の旅を思い出すのに時間がかかりましたが、分かっていれば始めから事こまかく日記に書き残しておけばよかったですと後悔です。本が出来皆さんにお送りし私の役目は終わりました。本を手にした参加者の方々からお礼のお手紙を頂き、「再び旅を思い出し当時のことをアルバム

と見比べ楽しみました。」という内容でした。本にして良かったと今は喜んでおります。

『愛と闘病の手紙』

有田博司(安城市)



A5 268頁  
ソフトカバー製本

昭和二十九年五月、私が五年間の療養生活を終えた時、公務員として働く妻が一家を支え、私は家で二児の面倒をみる日常生活となっていた。私は暇をみつけて、五年間の妻や知友からの手紙など整理しているうちに、これを原稿用紙に写し、文集を作ることになった。それから半年ばかりのうちに、書きあがった原稿用紙が三百枚をこえた。

これを年度別に編集し表紙をつけて綴じるわけだが、私は妻への感謝の気持ちを表すため妻との往復書簡を主とすることにして、四冊の文集が出来上がった。標題は「愛と闘病の手紙」と決めた。

その後、この文集は誰の眼にもふれず、日記やノート類と一緒に箱詰となって私の身近にあった。私は今年八十八歳となり、八十五歳の妻の生気の衰えを気にしている。この度息子が

出版した一書が契機となって、古い原稿に日の目を見させる気持になった。

## 『南吉のやなべ』

小栗大造 (半田市)



A5 176頁  
ソフトカバー製本

ワシの家内は南吉の家の隣りで生れ育ったので南吉のことやその家のことはよく知つた。ワシもよう聞いトル、本にも書いたように書いてチャイカンコトは心得トル。

南吉もワシもこのやなべで育つた、その頃のやなべを今ワシが書かんと消えてしまふが、そのついでに自分のことも書き残すことにした。おほずかしい次第、それにつれて矢勝川の彼岸花のことも、長い間ポツポツやればナント力出来るモンダと、全国から励しの手紙を頂く、本の表紙はハンの木の花房で書いた。今二月誰も知らないハンの木の花房が垂れている、目立たので誰も知らんドル、それがまたうれしい、今ワシは九十一になった。百までは序ノ口、毎日冬でも矢勝川へ出かけ彼岸花の手入れを仲間とヤツトル、人生さまざま、こんなところダンナ、失礼

## 『古希光陰』

岡 忠男 (半田市)



A4 350頁  
ソフトカバー製本

15年程前、芳賀ゼミ(東北大学)の交流誌「広流」に、芳賀先生から「何か書いて寄稿せよ」という下命を受け、考えあぐねた挙句、満州・ハルビンでの幼少時の体験を書きました。自分では、取るに足らない体験だと思つていましたが、読んで戴いた方々から思わぬ反響を得て、友人の「書いてこそ値打ちがある。どんなすごい体験でも、書かなければ何にもならない」という言葉を実感させられました。その後も、小学校時代の思い出や定年後にグループで訪れた中国での旅行記などをしたためていきました。07年芳賀先生から、今まで書いたものを本にしてみたらどうかといわれました。その時は、全くその気はありませんでしたが、昨年の8月に70歳となり、古希を迎え、昭和で50年、平成で20年生きてきたことになりました。このフレーズと趣味の水墨画が決め手となり、これまで書いてきたものを纏めてみました。余計な形容詞は省き、テンポを重視したので美文ではありませんが気楽に読んでいただければと思つて

おります。

旬です。この機械 Part.46

## 大型インクジェットプリンター

キヤノン製 image PROGRAF iPF8100

解像度/2400x1200dpi  
インク/12色顔料インク  
サイズ/B0ワイド

従来のエプソンに変わり、1月に導入しました。  
最新だけに12色の顔料インクによりさらに美しく出力できます。  
ご利用下さい。



## 編集後記

▼先行き見えずの現状ですが、マスコミの報道も増幅させていますが、出来ることから、見直します時と考え、実行したいと思ひます。

菜園では、露の塔が不況をものともせず頭をあげて陽を浴びています。野菜のようになりた